

当館が認知した主な犯罪の事例（10 月～12 月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例 1】

ミュンヘンで開催されたオクトーバーフェストに友人と参加。混み合うテントの中で数時間過ごし、テントを出た際に、おなかの前方につけていたボディバッグがなくなっていることに気がついた（現金とパスポート在中）。テントは出入り自由で、かなり混み合っていた。

【事例 2】

デュッセルドルフのインマーマン通りを歩いていたところ、突然、陽気な雰囲気
の外国人 2 人からハイタッチを求められた。驚きながらもハイタッチに応じたところ、今度は肩を組んできたり、更には、痛いと感じるくらいの強さで足を蹴ってきた。不快感を覚えたことから短時間でその場を離れたが、しばらくしてからポケットに入れていた財布がなくなっていることに気がついた。

※ 在留邦人、旅行者が多く行き交うインマーマン通りにおいて、本事例のような手口が複数確認されています！

【事例 3】

デュッセルドルフで開催のメッセに参加するために日本から出張。デュッセルドルフ中央駅直結のホテルに宿泊。バッグはスリ対策のためにチャックにカラビナや南京錠をつけて補強。ホテルの入口に入るところで腰につけていたウエストポーチに違和感を覚えたため確認したところ、チャックにつけていたカラビナが外され、中に入れていた貴重品がなくなっていた。警察で防犯カメラの画像を確認してもらったところ、男が近づいてきたかと思うと一瞬でカラビナを外して貴重品を抜き取り、歩いてきた別の男にわたす様子が写っていた。

【事例 4】

デュッセルドルフで開催のメッセに参加するために日本から出張。デュッセルドルフ市内のホテルの会議スペースで商談をしていたところ、近くにいた女性から「メッセに来たのであれば、明日は会場までタクシーに乗り合いしない

か」などと声をかけられた。2、3会話に応じ丁重に断ったが、その後気がついたら隣に置いていたバッグがなくなっていた。

※ 事例3、4のとおり、大規模見本市であるメッセに来訪した出張者が被害に遭うケース多数です。出張者は、まとまった現金を持っているとの理由から「ターゲット」にされていると思われます。最大限の緊張感をもって行動してください。出張者同士で防犯について声を掛け合ってください。

【事例5】

同僚と出張でドイツを訪れ、フランクフルトからデュッセルドルフ行きのICEに乗車。頭上の棚にバッグを置いていたところ、ケルン駅を通過した時に確認したらなくなっていた。

※ フランクフルト、ケルン、デュッセルドルフを走るICE車内での置き引き事例が複数報告されています。いずれも頭上の上に置いていたバッグがいつの間にか盗まれる手口です。途中の停車駅では特に注意してください。駅で2、3分停車しているうちに犯人が車内に乗り込み、バッグを盗んで直ぐに降車する（逃走する）手口が確認されています。気づいたとき（ICEが発出した時）には、犯人とバッグは既に車内にはいません（ありません）！

【事例6】

高速道路を走行中、後続車がパッシングをして停車を求めてきた。路肩に車を駐めると後続車から降りてきた男から「車が燃えている」というようなことをまくし立てられ、慌てて車の後部を確認しているうちに、車内に置いていたカバンを盗み取られた。

※ めずらしい手口ですが、警察によれば時折発生しているとのこと。このような出来事（高速道路でパッシングされる）に遭遇したら、まずは落ちついて、自分の車両に異常がないかを確認してください（急停車や道路への飛び出しは、交通事故につながり非常に危険！）。後続車の運転手と話をするにしても、この種事案が発生していることを念頭に、貴重品から意識を切らさず、決して油断しないでください。

2. 侵入盗（自宅以外）

【事例1】

日本から出張に来てデュッセルドルフのビジネスホテルに宿泊。夜中2時頃に目が覚め、バッグからものを取り出した時には異常がなかったが、朝、目を覚ますと、同バッグ、腕時計、靴が室内からなくなっていた。入口ドア（オートロック）はきちんと閉めたつもりだが、チェーン錠は使用していなかった。

※ ビジネスホテルの部屋への侵入窃盗事件が複数確認されています。在室中でも油断せず、ドアに設置してある施錠設備は内側から完全使用してください

い（チェーンロック、かんぬき錠等）。

【事例２】

デュッセルドルフの会員制スポーツクラブを利用。いつものようにロッカーに荷物を預けて運動をし、帰ろうとロッカールームに戻ったら、ロッカーの南京錠が何者かに壊され、中に入れていた財布（ドイツの身分証等在中）が盗まれていた。ほかにも複数台のロッカーの鍵が壊され、荒らされていた。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに１１０番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。